

令和7年度第1回市川三郷町総合教育会議

会議議事録

(第1回)

議題：	
日時：2025年7月30日15:15-17:00	場所：本庁舎1階 大会議室
出席者：町長 遠藤浩 教育長 渡井渡 教育委員 塩島萬夫・小林和実・渡邉久・今村孝男	欠席者：
統括 一瀬浩 政策推進課長 渡辺潤 総務課長 井上靖彦 防災交通課長 丹沢真樹 子育て支援課長 相川由美	
作成部署：総務課 総務法制係	作成者：塩澤克哉

議事録内容（1）

司会進行：井上総務課長

井上課長：私は司会を務めさせていただきます総務課長の井上と申します。よろしくお願いいたします。

1.開会

渡井教育長：改めましてこんにちは。本日は市川三郷町総合教育会議を開いていただきまして、教育委員会の委員の皆様のご意見をお聞きしていただける機会設けていただき、ありがとうございます。

本日の議題であります小中学校の適正規模配置等の検討につきましては、長い期間をかけて検討委員会で議論をしまいいりました。本日の会議では町長への様々なお話を各委員さんからいただけると嬉しく思います。本日はよろしくお願いします。

2.あいさつ

遠藤町長：改めましてこんにちは。本日は第1回市川三郷町総合教育会議ということで招集させていただきましたところ、教育委員の皆様には大変お忙しいなか、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

また、委員の皆様には日頃より、市川三郷町の教育推進のためにご理解、ご尽力いただいておりますことにも重ねて御礼を申し上げたいと思います。本町の総合教育会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づき教育に資するため設置をしています。

本日は議題にありますように、「市川三郷町立小中学校適正規模・配置等基本計画（素案）」について教育委員の皆様と意見を交わしたいと考えております。

教育委員の皆様には限られた時間の中で計画の策定に真摯に取り組んでいただいたことに、誠に感謝申し上げます。今後町としての計画を決定していく予定ですが、今日の会議の中でいただいた意見等を参考にしながら、本町の子どもたちにとって望ましい教育環境を確保し、質の高い学校教育を図っていくことを第1に取り組んでいきたいと考えております。教育委員の皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

井上課長：市川三郷町総合教育会議設置要綱第4条の規定により町長が議長を務めることとなっております。

遠藤町長、よろしくお願いいたします。

3.議題

遠藤町長：それでは議題に入ります。①「市川三郷町立小中学校適正規模・配置等基本計画（素案）」について説明をお願いします。

櫻井課長：市川三郷町立小中学校適正規模・配置等基本計画（素案）について説明させていただきます。

本基本計画につきましては、4月以降の毎月の教育委員会と臨時教育委員会の計5回に渡って協議・検討を進めていただいております。今回、基本計画の素案という形でお示しできる段階となりましたので説明させていただきます。具体的な内容は時間が限られていることや委員の皆さんは全て承知いただいていること。また、町長につきましては事前に資料をご確認いただいていることもあり、この場では概要と要点のみお伝えします。ご容赦願いたいと思います。

基本計画の構成について説明させていただきます。大きく分けて3つの部分に分かれています。

1つ目は市川三郷町立小中学校適正規模・配置等基本計画の方向性についての部分で全体の基本計画の骨子となる部分を説明する内容となっております。その骨子を基にしたそれぞれ中学校の統合計画、また小学校の統合計画を説明する構成となっております。今回の基本計画はあくまでも適正規模・配置等を実現するための計画となっております。統合にあたっての具体的な方法(例：通学路等)については後に設置する予定である準備委員会（仮称）で具体的な方策をさらに決めていくという計画となっております。ご理解いただきたいと思います。

I 市川三郷町立小中学校適正規模・配置等基本計画の方向性について

ここでは、小中学校の適正規模の基本的な考え方と適正配置の基本的な考え方を述べております。

学級規模については複式学級が生じる学級規模を解消すること、1学級20人以上の学級にすることが望ましいとしております。ただし、これ以下の学級規模にならざるを得ない場合でも授業や学校活動における方法を工夫することで充実した学校教育が行える方策を実施していくとしております。

また、各学年の学級数についてはクラス替えが可能な1学年2学級以上の規模が望ましいとしております。

ただし、地域性や通学距離を考慮するとしております。

小学校の適正配置については上野小学校と大塚小学校を統合する。市川小学校と市川南小学校、市川東小学校を統合する。六郷小学校は地域性や通学距離を考慮し、現状のままとするとしております。

また、中学校の適正配置については、三珠中学校と市川中学校、市川南中学校、六郷中学校を統合するとしております。

小中学校の統合にあたっての順番については、まず、中学校の統合を速やかに行うこと。小学校の統合については中学校の統合後速やかに実施していくとしております。

II 中学校の統合計画について

統合にあたっての施設整備については、新たな中学校を建設する方法と既存の校舎を利用する方法が考えられます。生徒数及び学級数の推移の見込みから普通教室数は11教室以上を確保する必要があるため、現状普通教室を11教室以上確保できる校舎は市川中学校1校となります。

統合の方法については、統合校を新たな中学校として設置する新設統合を提案しております。

統合の時期については令和11年度を目途としております。

III 小学校の統合計画について

こちらも統合にあたっての施設整備については、新たな小学校を建設する方法と既存の校舎を利用する方法が考えられます。上野小学校と大塚小学校の統合にあたっては、中学校同様に児童数及び学級数の推移の見込みから普通教室数を6教室以上を確保する必要があります。三珠地区ということも考慮すると上野小学校と三珠中学校の2校が必要な教室数を確保できるというものであります。

市川小学校、市川南小学校、市川東小学校を統合した場合についても12教室以上を確保する必要があるため、現状は市川小学校のみということになります。

統合の時期については市川小学校、市川南小学校、市川東小学校の統合が令和14年度、上野小学校と大塚小学校の統合が令和17年度を目途としております。

以上になります。よろしくお願いします。

遠藤町長：このような転換点に関わることは大変重責であると感じるとともに真摯に取り組んでいただいている教育委員の皆さまには改めて感謝を申し上げます。

答申から今に至るまでにピックアップするような議題を簡単に説明いただきたいと思いますが、教育長いかがでしょうか。

渡井教育長：基本的には答申を基に議論を進めており、答申に肉付けをする形で検討をしてきました。

まず、適正規模につきましては答申と同様となっております。また、答申にもありました学級数についてもクラス替えができるような規模でも良いのではないかと。また地域性や通学距離について考慮の必要があることを基本計画の中に採用させていただきました。

適正配置については地域性の考慮の中で上野小学校と大塚小学校を統合する。市川小学校と市川南小学校、市川東小学校を統合する。六郷小学校は地域性や通学距離を考慮し、現状のままとするとしております。また、中学校の適正配置については、三珠中学校と市川中学校、市川南中学校、六郷中学校を統合すると基本計画の中に作成いたしました。

それに伴う必要事項については、答申よりも深めて計画の中に織り込ませていただいた。

以上です。

遠藤町長：本計画の課題については教育的観点を主に議論をしていただいたと思います。その答申を受けて素案が導き出されていると思いますが、どんな点に着目して議論してきたか教育委員の皆さまからお聞かせ願いたいと思います。

塩島委員：検討委員会からの答申を私たちは重く受け止めながら議論してきました。素案の冒頭にも書いてあります

「望ましい教育環境とはどういうものか」「質の高い学校教育の充実を図るためにはどうしたらいいか」を主眼として答申に対する検討を進めて参りました。これまでの本町の教育は、小規模な学校で人数も少ない学級で自分達も教壇に立ってきました。少ないからこそできる教育に主眼を置きながらやってきており、それは答申の中でも認めていただいた訳ですが、どうしても少ないから上手く回らない、子どもたちにとって不利になるといところを改めて感じながら、「どういった手立てが必要か」「どういった規模・配置が良いのか」を主眼に考えてきたつもりです。人口減少に伴い生徒数の減少が及ぼす影響は非常に大きいと思います。町の施策の中でこれまで取り組んでいる町単講師の採用・支援員の配置等をしていいますが、さらに新しい枠組みの中でも今まで受けられた子供たちの教育の質が落ちないようにさらに引き続きお願いしたいと思います。

今村委員：今回、検討委員会から出された3点について検討委員会が慎重に決定し、答申をいただいたということで私たちもどういった答申なのかと思っておりました。現場に38年おまして、40名程の集団から震災の際には複式学級を2年程担任をしたということもありました。良いところもありますが、小人数学級では子供同士の問題を解決するのが難しく悩んだことがありました。

逆に大人数学級では一人一人の生徒に目をかけることが出来ないことで悩むこともありました。

「規模や人数を含めてどのくらいが良いのか」を考えていますが、学級数はクラス替えができるような2学級以上は欲しいと答申にもあります。クラス替えをすることで新しい仲間と色んな出会いがあって

良いことだなと思います。単式学級も親密感や仲の良さがあって、それぞれの良さがあると思います。

そういった規模含めて計画素案については良いのではないかと思います。一つお願いがありまして、中学校を統合し、その後小学校を段階的に統合するとあります。目標・計画ということで、町としても予算等大変だと思いますが、計画がスムーズに滞りなくやっていただくことが一番だと思っております。

遠藤町長：教育の中の個の学習レベルの問題と集団生活の部分と両方を考えて20人規模でクラス替えができる規模が望ましいという結論になったと思います。PTA目線で考えた場合に自分たちの子供を見たときにどういう考えがあって、どういう議論が出て来るのかお聞かせいただきたいと思います。

渡邊委員：保護者・PTA目線での考えとなりますが、教育委員になり初めに「学校めぐり」として各学校を視察していただきました。どうしても比べてしまうのが、私の頃の大人数の中学校、娘・息子たちの頃の考えで学校めぐりをさせていただきましたが、かつての頃と比べて小人数でとても驚きました。視察した際には必ず先生にPTA行事や親御さんとの関係について確認しましたが、小人数の割に良好で活動はそれなりに出来てると伺っております。どうしても人数が少なくなると良い面もありますが、足りない面もあると感じました。小学校は市川・三珠はそれぞれ統合、六郷は距離・地域性から残すという考えは、生徒が少ないからこそ先生にご指導いただけることや子供たちが多く発言することがあるかと思います。やはり親目線では小規模な中学校から1学年何百人という高校に上がった際に様々な部分で心配な面があると思います。特にコミュニケーション能力については、クラス替えができる程度の学級数があることで育まれると思うので、児童生徒が並行に上がっていくためにクラス替えできたら良いなと親目線では思いました。タイトなスケジュールだと思いますが、方向性が決まりましたら、町全体で協力していただければと思います。

遠藤町長：私たちが通っていた頃のクラス数と今の子どもたちの環境は全然違うと思います。そういった中で本町は20年間対応をしてこなかったため今に至りますが、教育委員になられて、議論する中で初めの頃に比べ、客観的に見て考え方が変わってきていると感じます。議論していく中で「どういう考えを持って臨んだか」お聞かせいただきたいと思います。

小林委員：教育委員になってから学校のことを分かるようになり、例えば小規模の学校の良いところ、町単講師など先生が手厚い教育をしていただいたことが分かりました。やはり小規模だと問題もあると学校訪問で分かりまして、保育園から中学校までクラス替えがなく、大きい学校に入学したときに母親としては不安な面もあります。どう友達を作ったらいいいのか分からない子どもの話を聞いたことがあり、適正規模はすごく難しいと思いますが、クラス替えができる点は色んな友達を作ることが出来るので良いと思います。最初の頃は小さな町で手厚い教育が受けられて温かい町だなと思いましたが、成長していくにつれては多少のクラス替えや交流ができる方が良いなと思いました。部活面に関しても小規模だと部活が限られてしまう。高校から始めるとしても難しく、ある程度の人数が必要だと感じました。

遠藤町長：何名かの委員からスムーズにと意見がありました。他自治体と比較して本町はどんな感じでしょうか。

渡井教育長：本町の場合、案として10校ある学校を1中3小にするということで非常に規模の大きな統合計画になってくると思います。他自治体は1ケースでの実施が多く、一度に多数の学校を統合するというケースは少ない。本来はもう少しペースを落として実施できるといいが、そうしてしまうと何年も先になってしまいます。とは言え、早急にやり過ぎるのも良くないと思い、3年ごとの計画としています。スピード感が出てしましますが、現時点で考えられる妥当な計画案であると感じています。

遠藤町長：行財政改革を推進する中で、統合にあたっては様々な予算付けが必要になるかと思いますが、統合を進める上で「子供たちのために」という教育的な面から説明することになると思います。説得をするための根

抛について考えはありますか。

渡井教育長：子どもたちの最も良い教育環境を町として整備しなければならないことを一番に考えたときに文部科学省では目指すべき新しい時代の学校教育の姿として、「個別最適な学び」と「協同的な学び」の2つの側面を共に行い確かな学力を身につけることを進めています。適正規模を考えたときに小規模になっても「個別最適な学び」は達成できるかもしれませんが、小規模になるほど「協同的な学び」の達成が難しくなってしまうと思います。町として「協同的な学び」を達成できる教育環境を整備することは1つの理由になると思います。また、子どもたちの社会性の育成も必要だと感じます。小規模になるほど社会性を育成し辛くなってしまうと思います。小中学校の義務教育段階で社会性を育めない集団規模だと、きちんとした学習機会の保障ができていないと考えられます。適正配置については、中学校では通学・社会性・進学を考えたときに本町においては1つにまとめた方が子供たちの一番良い環境となると思います。次に小学校では、地域性（通学）が1番大きいと思いますので、ある程度の規模で3つの地域にという内容になっています。本町の子どもたちに最良の教育環境を確保するためには必要なことだと説明できると思います。

遠藤町長：「みさと学との関連性」といった観点ではいかがでしょうか。

塩島委員：かねてから三珠地区では地域との関わりを学校教育の中で取り上げられてきました。それが「みさと学」という形で体系化され、各学校ごとに教育課程に位置づけられてきました。例えば、統合されたとしても各学校で学んできたことが共有化されるだけで、更に言えばもっと地域を学ぶ機会が増えていくと思います。現在も取り組んでいるかと思いますが、町全体の中で交流し成果を発表するといったこともあれば、広い視野が持てるようになるのではないかと思います。

遠藤町長：中学校統合に際しては、市川中学校が統合後の校舎になる可能性があると思いますが、各地区から来た子供たちが一つにまとめるためにはどういう教育が考えられますか。例えば、去年から中学生一同でコンサートを開催しているようなきっかけを作ることが今後必要なのでしょうか。

今村委員：今後を見越して、統合するまでの学校間での交流を深めることは大事だと思います。また、タブレットを使用した共同での授業などやれるのではないのでしょうか。先ほど、「みさと学」についても、まずは地域の大人たちが伝統文化等に対する意識を変えていく必要があるのではないのでしょうか。

遠藤町長：学校がなくなっても地域の活力が衰えないために何かご意見はありますか。

渡井教育長：学校がなくなると地域の活力がなくなってしまうという意見は多くありますが、本町においても高田地区に学校がありました。現在、高田地区は公民館活動が非常に活発であり、子どもたちの交通安全教室、地域のお祭りもあり盛んに活動をしています。学校だけでなく、地域の大人の働きかけ等いろいろ考えて活動することは大切だと思います。大同地区での魚のつかみ取りも続けて欲しいと思います。

遠藤町長：今まであった地域一帯の学校行事がなくなってしまうことについてはどうでしょうか。

渡邊委員：地域の御神輿も学校に声掛けをしたところ参加してくれた子どもがいました。町全体で伝統行事を子ども同士で共有できればいいと思います。学校がなくなってもできることは行事として継承して行って欲しいし、町としても伝統行事を絶やさないようにできればいいと思います。

遠藤町長：中学校が令和11年を目途にということですが経済的な部分で注意しておいた方がいいことはありますか。

小林委員：制服だけで言うと全部買い直すというのは負担になると思いますので、新設校ではあるかと思いますが段々と切り替わっていくのかなという認識です。

遠藤町長：他に何かご意見ありますか。

今村委員：答申の中で1学級以上の人数について言及されていましたが、班替えやクラス替えから社会性を学べるものもあるかと思っています。各クラスでも複数のグループが組めるような人数が理想的かなと思います。

小林委員：予定通りに進んでいけばいいなと思います。

塩島委員：六郷地区が将来的な子どもの推移をみると厳しい状況にあるが、地域性を考慮すると素案の内容になってしまう。町の将来の発展を見据えながら考えていく必要があると思います。町には、子育て世代のニーズを掴み施策をやっていたいただければと思います。

渡邊委員：地域性を考慮して六郷地区の小学校を残すということは若い世代を呼び込めるかだと思いますので、魅力ある市川三郷町にしていいただければと思います。

井上課長：長時間にわたり意見交換ありがとうございました。本日の会議での意見は町の政策に活かしていきたいと思います。最後に閉会の言葉を渡井教育長お願いします。

渡井教育長：本日は私たちの色々な意見を町長に真摯に聞いていただきありがとうございました。これまで一生懸命に統合等について検討して参りました。本計画が出来上がった暁には町の強力なサポートのもとに良い学習環境が整備できますことをお願い申し上げ本日の総合教育会議を終わりにします。